

尻別川水系河川整備計画[変更](原案) へのご意見とその回答について

河川整備計画点検の流れ

流域委員会における審議内容

尻別川流域委員会
＜河川法第16条の2第3項＞

- ・近年の気象・出水状況
- ・河川整備計画策定時からの社会情勢等の変化

第4回流域委員会

河川整備計画変更の必要性(点検)

10月23日(終了)

第5回流域委員会

河川整備計画変更(原案)の作成

12月7日(終了)

関係住民(パブリックコメント)
＜河川法第16条の2第4項＞

12月13日
～

1月17日(終了)

第6回流域委員会

河川整備計画変更(案)の作成

2月16日(予定)

北海道知事からの意見聴取等
＜河川法第16条の2第5項＞

関係機関連絡調整・協議(関係省庁)

河川整備計画変更の決定・公表

- **尻別川水系河川整備計画〔変更〕（原案）に寄せられたご意見と（案）への見直しについて**
 1. **前回の流域委員会（第5回）でのご意見と回答**
 2. **流域住民からのご意見と回答**

1. 前回の流域委員会（第5回）でのご意見と 回答について

前回の流域委員会でのご意見

※ご意見の詳細は尻別川流域委員会(第5回)議事要旨をご参照ください。

ご意見	本資料 説明頁	(案) 該当頁
○ 河川整備の実施に関する事項		
⑥外来種問題に関する取組について	(P.5)	51
⑤水面からの視点における河川景観について	(P.6)	54
③防災情報のわかりやすさについて	(P.7)	68
②水質に関する住民・関係者の意識改革について	(P.8)	72
○ その他		
①気候変動に伴う融雪出水の特性の変化について	(P.9)	—
④流域の水資源について	(P.11)	—
⑦河道掘削以外の治水対策について	(P.12)	—

河川整備の実施に関する事項

前回の流域委員会のご意見⑥への回答

【ご意見⑥】

- （資料p.48）外来種問題について、地域と協働で駆除に取り組むイベントが実施できれば、流域全体での活動として有効ではないかと考える。



【回答】

- 尻別川流域では、オオハンゴンソウやブラントラウトなどの外来生物が確認されています。

今後の取組として、地域と協働で外来種駆除の取組を図るため、地域イベント等多様な「地域活動」とも連携して進めてるべく本文に追記しました。

実施にあたって、「地域と連携した外来植物防除対策ハンドブック(案)」なども参考の上で、取り組んでいきます。



例) 地域と連携した外来植物防除対策ハンドブック(案)
国土交通省河川環境課

(対応前)

- （原案）51ページ22行目

「さらに、外来種、特に特定外来生物の生息・生育が確認された場合は、在来種への影響を軽減できるよう関係機関等と迅速に情報共有するなど連携して適切な対応を図る。」

(対応後)

- 修正(案)51ページ22行目

「さらに、外来種、特に特定外来生物の生息・生育が確認された場合は、在来種への影響を軽減できるよう関係機関等と迅速に情報共有するとともに、**多様な地域活動**と連携して適切な対応を図る。」

河川整備の実施に関する事項

前回の流域委員会のご意見⑤への回答

【ご意見⑤】

- ・ 尻別川は観光地ではあるものの、河川空間沿いの景観が良好に保全されているため、カヌーやラフティング等活発な河川利用の現状も踏まえ、水面からの視点における景観についても、本計画に反映できないかと考える。



【回答】

- ・ 尻別川では観光やカヌー、ラフティング等のアクティビティに多くの人々が訪れ、水面利用が活発であり、河川空間から眺望される農地・市街地まで一体となった景観など特徴的な水辺景観が良好に保全されていることから、様々な視点からの景観を考慮して、その保全・創出を図ることを追記しました。



羊蹄山と尻別川(川面から羊蹄山を望む)

(対応前)

- ・ (原案)54ページ7行目

「尻別川は、羊蹄山を背景とした河川景観、河岸段丘を利用した農業地帯と調和した水辺等の変化に富んだ特徴的な水辺景観を有しており、その保全・創出を図る。」

(対応後)

- ・ 修正(案)54ページ7行目

「尻別川は、羊蹄山を背景とした河川景観、河岸段丘を利用した農業地帯と調和した水辺等の変化に富んだ特徴的な水辺景観を有していることから、**遠景、近景や水面からなど様々な視点からの景観を考慮し、河川空間から眺望される農地・市街地・山地等と一体となった景観の保全・創出を図る。**」

河川整備計画の目標に関する事項

前回の流域委員会のご意見③への回答

【ご意見③】

- 観光地においては外国人だけではなく、その土地で災害の経験が無い人に対してどう情報発信するかが大きな課題である。防災情報の多言語化は必須だが、わかりやすく単純化された情報や、迅速かつ確実に届く方法について検討することが重要である。

【回答】

- 観光客やインバウンドを対象とした防災情報の多言語化だけではなく、防災情報の内容の改善についても、減災対策協議会など既存の枠組みと連携し取り組んでいくことを追記しました。
- さらに、今後も気候変動により発生しうる水害リスク情報に関しては、今後の予測技術の向上等を踏まえ、最新の科学的知見に基づき地域への情報提供を行っていくことを追記しました。



例) 尻別川減災対策協議会

(対応前)

- (原案)68ページ11行目

「加えて、浸水範囲と浸水頻度の関係を図示した「水害リスクマップ(浸水頻度図)を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等を促進する。(中略)

なお、尻別川流域では世界的な観光都市を抱えている特性上、住民のほか観光客やインバウンドも多く存在することから、的確な避難判断・行動に資するよう、防災情報の多言語化の促進、携帯電話等通信機器を最大限に活用した迅速な情報提供を行うとともに情報伝達手段についても、関係自治体やニセコ観光圏協議会等と連携して取り組む。」

(対応後)

- 修正(案)68ページ11行目

「加えて、浸水範囲と浸水頻度の関係を図示した「水害リスクマップ(浸水頻度図)を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等を促進する。**気候変動により発生しうる水害リスク情報に関しては、今後も最新の科学的知見に基づき充実を図り、地域に提供する。**(中略)

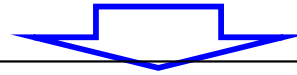
なお、尻別川流域では世界的な観光都市を抱えている特性上、住民のほか観光客やインバウンドも多く存在することから、的確な避難判断・行動に資するよう、携帯電話等通信機器を最大限に活用した迅速な情報提供**や、情報の多言語化等、誰もがわかりやすく理解しやすい情報について、**関係自治体やニセコ観光圏協議会等、**既存の枠組み**と連携して取り組む。」

河川整備計画の目標に関する事項

前回の流域委員会のご意見②への回答

【ご意見②】

- （資料p.4）他河川では、住民の水質に関する意識改革が大きな原動力となった。尻別川においても、住民や関係者の意識の醸成に努めるということも原案へ反映をした方が良く考える。



【回答】

- 尻別川の良い水質の維持に関しても、地域住民の意識改革が重要であると考えますので、住民の水質に関する意識醸成を図りつつ水質保全に努めることを追記しました。
- 地域の環境保全に関する取組との連携等が想定されます。



例) 環境保全に関する地域活動
(尻別川クリーン作戦の状況)

(対応前)

- （原案）72ページ8行目

「尻別川の水は、その豊富な水量や清流日本一と称される水質を誇っていることから、尻別川の水環境は流域の生産活動等にとって極めて貴重な資源であり、この資源の継続的な保全に努める。」

(対応後)

- 修正(案)72ページ8行目

「尻別川の水は、その豊富な水量や清流日本一と称される水質を誇っており、尻別川の水環境は流域の生産活動等にとって極めて貴重な資源であることから、流域住民の意識の醸成を図りつつ、この資源の継続的な保全に努める。」

河川整備計画の目標に関する事項

前回の流域委員会のご意見①への回答

【ご意見①】

- （資料p.10）気候変動に伴う融雪出水の特性の変化について、水位の平均値では均されてしまい傾向が見えづらく、また20年間のスパンでは対象期間短いことから、最大値、最小値の幅でさらに長期間確認した方が傾向を把握できると考えられる。

【ご意見④】

- （資料-2）「整備計画変更の視点と反映の考え方」に、地下水も含めた流域の水資源が電力確保等をはじめ大きな位置づけであると考えられるため、これについても資料-2に記載すべきである。

【回答1】

- 気候変動影響評価報告書（令和2年12月環境省）によると、RCP8.5シナリオの場合、21世紀末（2076～2095年平均）の日本の年最深積雪及び降雪量は20世紀末（1980～1999年平均）と比べて、全国的に有意に減少すると予測されています。
- また、気候変動での気温上昇による、積雪量の減少、融雪の早期化については以下のとおり各分野において影響を及ぼすとされています。

融雪の変化による将来予測される影響 （気候変動影響評価報告書より一部抜粋）

- 融雪流出量の減少による農業用水の不足
- 融雪の早期化による、農業水利施設における取水への影響
- 融雪時期の変化は水田の管理に多大な影響を及ぼす
- 地下水の低下等による農業用水の需要と供給のミスマッチ
- 融雪による地下水供給の増加は、地すべり等の斜面災害の発生に大きく関係する
- 積雪量や融雪出水の時期・規模の変化により、融雪出水時に合わせて遡上、降下、繁殖等を行う河川生物相に影響を及ぼす可能性がある
- 融雪出水時期の変化等による水力発電への影響

気候変動影響評価報告書（抜粋）

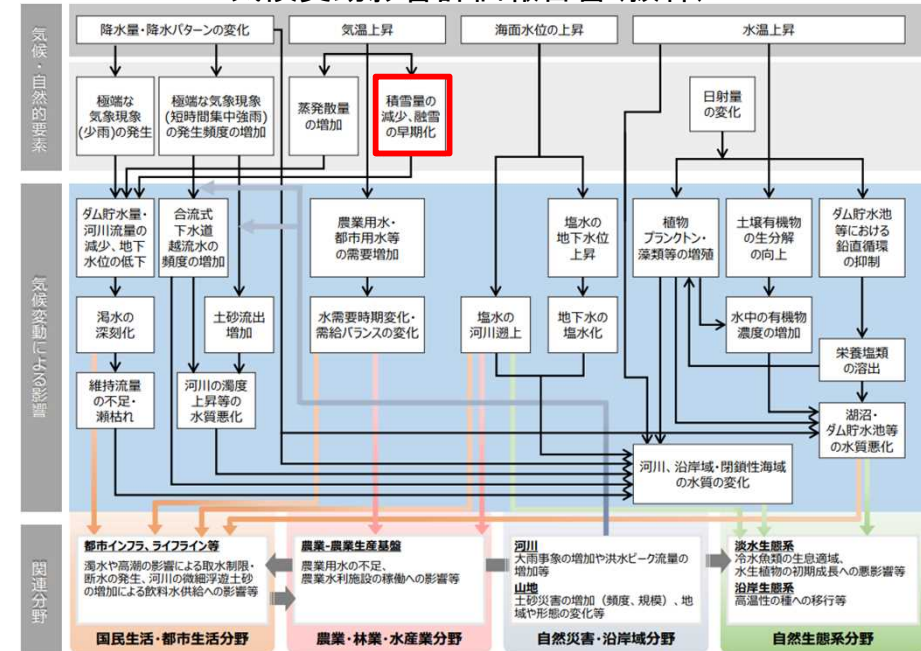


図 3-5 気候変動により想定される影響の概略図（水環境・水資源分野）²⁴

河川整備計画の目標に関する事項

前回の流域委員会のご意見①への回答

【回答】・流域における融雪状況の変化を過去57年間の統計データに基づき整理しました。

■尻別川流域の融雪量・融雪期の変化

＜融雪量＞……降雪量は減少しているが、現段階では融雪量(名駒)に大きな変化は見られない(図-1)。

＜融雪期＞……3,4月の気温が0℃以上となる日数は増加しており、融雪開始日も早まる傾向が見られる(図-3)。また、月別の融雪量をみると1990年頃以降では、3月の融雪量割合が増加しており(図-2)、融雪期が早まる傾向がみられる。融雪期(3月～6月)に発生する最大流量は若干減少する傾向。

◆降雪量・積雪量(倶知安)

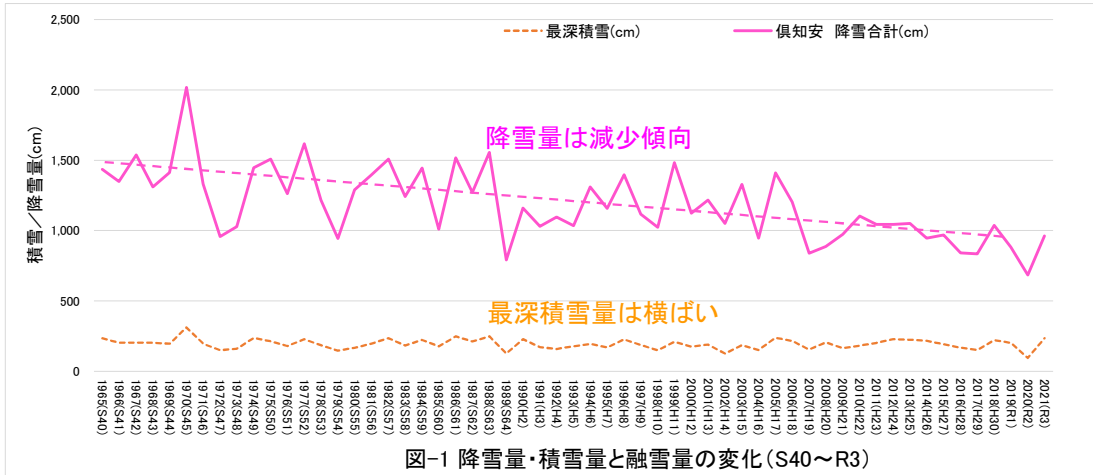


図-1 降雪量・積雪量と融雪量の変化 (S40～R3)

◆月別融雪量(名駒)と融雪期最大流量(名駒)

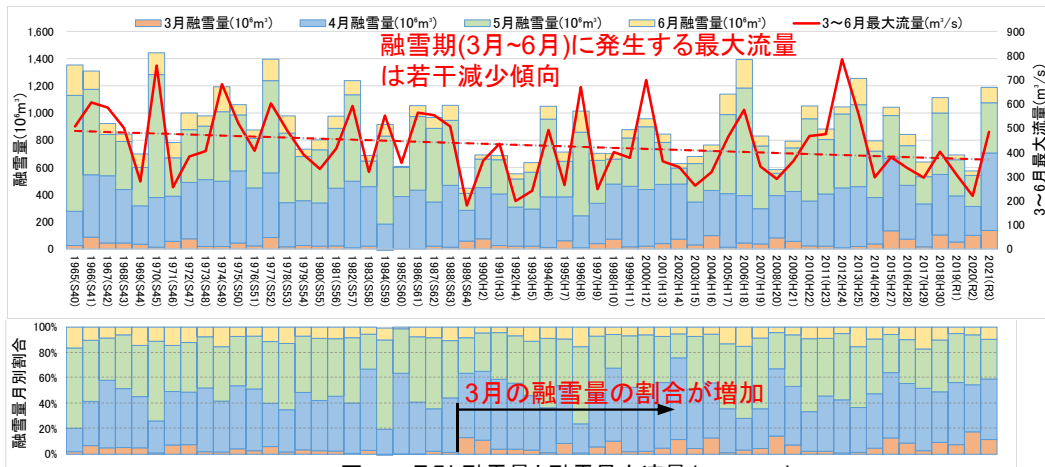


図-2 月別融雪量と融雪最大流量 (S40～R3)

◆年毎の融雪開始日と3,4月の気温0℃以上となる日数(倶知安)

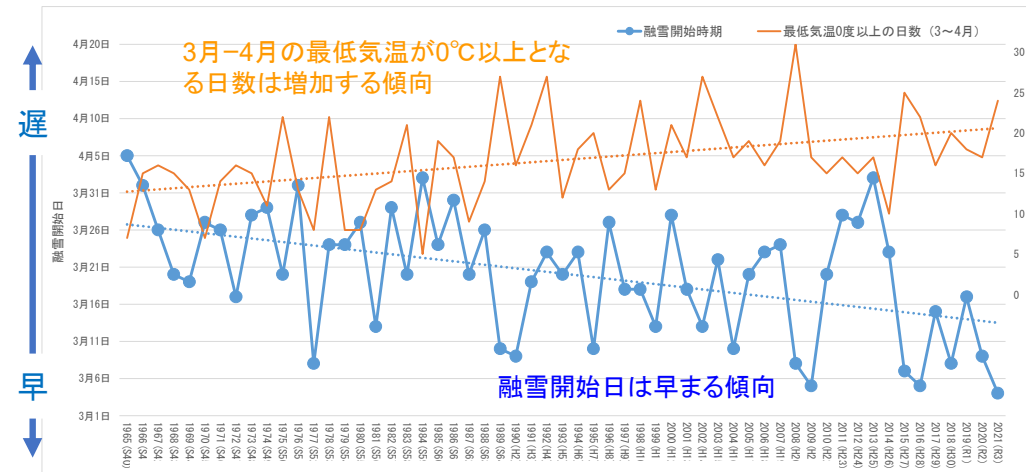
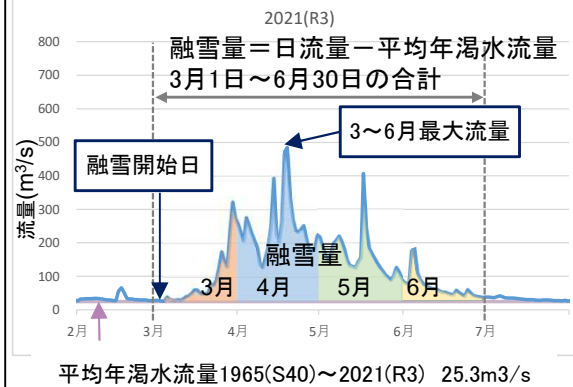


図-3 融雪開始日の変化、3,4月の0℃以上の日数 (S40～R3)

○融雪量・最大流量の設定の考え方



※使用した統計データ

- ・積雪量・降雪量…気象庁 倶知安地点降雪合計 1965(S40)～2021(R3)(57年間)
- ・気温…気象庁 倶知安地点日平均気温
- ・流量…国交省水文水質DB 名駒観測所 日流量1965(S40)～2021(R3)(57年間分)

河川整備計画の目標に関する事項

前回の流域委員会のご意見④への回答

【ご意見①】

- （資料p.10）気候変動に伴う融雪出水の特性の変化について、水位の平均値では均されてしまい傾向が見えづらく、また20年間のスパンでは対象期間短いことから、最大値、最小値の幅でさらに長期間確認した方が傾向を把握できると考えられる。

【ご意見④】

- （資料-2）「整備計画変更の視点と反映の考え方」に、地下水も含めた流域の水資源が電力確保等をはじめ大きな位置づけであると考えられるため、これについても資料-2に記載すべきである。

【回答2】

- 近年は小雪・暖冬に伴う融雪時期の早期化の影響から、流域内でも農業用ダムの貯留に影響が生じる可能性が懸念される事態も生じている（取水前倒し検討、令和2年融雪等）。
- 尻別川の水は、その豊富な水量や清流日本一と称される水質を誇っており、流域の水環境は流域の生産活動等にとって極めて貴重な資源である。
- 気候変動を踏まえ、積雪量や融雪時期の変化は尻別川流域においても多大な影響を与えることも想定されるため、引き続き流域内の融雪の状況等水資源については監視を行うとともに、必要に応じて「水利用協議会」等を通じ、流域全体での取組に努める。
- 流域内の「水資源の保全」に関しては上記も踏まえ、「尻別川河川整備計画[変更]の視点と反映の考え方」に反映した。



2. 流域住民からのご意見と回答について

パブリックコメントの実施について

- 「尻別川水系河川整備計画[変更](原案)」に対して尻別川流域の市町村(蘭越町、ニセコ町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、倶知安町)の住民の意見を反映するため、意見募集を行いました。

パブリックコメントの実施概要

◆縦覧期間

令和5年12月13日(水)～令和6年1月17日(水)

◆縦覧場所

- ・蘭越町役場
- ・ニセコ町役場
- ・真狩村役場
- ・留寿都村役場
- ・喜茂別町役場
- ・京極町役場
- ・倶知安町役場
- ・小樽開発建設部本部(工務課)
- ・倶知安開発事務所
- ・倶知安開発事務所
蘭越分庁舎

◆提出意見数 4件

ご意見は、以下の項目を記入いただき、電子メール、郵送、またはファクシミリ
のいずれかの方法で行いました。

- ① 氏名
- ② 住所(市町名)、
- ③ 連絡先(電話番号又はメールアドレス)
- ④ 年代
- ⑤ 尻別川との関わり
- ⑥ 意見
- ⑦ 公聴会の参加希望確認

◆住民説明会

令和5年12月20日(水) 蘭越町民センター らぶちゃんホール(3名参加)



◆公聴会

令和6年2月1日(木) 蘭越町民センター らぶちゃんホール(公述人1名)



流域住民からのご意見

ご意見	本資料 説明頁	(案) 該当頁
○ 河川整備計画の目標及び河川整備の実施に関する事項	—	—
①-1 魚類(イトウ)の重要性について	(P.16)	4、20、28、53
①-2 魚類(マス類)、底生動物(モクズガニ)の記述について	(P.17)	4、20、28、53
②-1 特定外来生物の追加と対策について	(P.18)	28、29、51
②-2 整備計画から現在までの順応的管理の実施について	(P.19)	36、56
②-3 「多自然川づくり基本方針」の具体的な内容について	(P.20)	43、45
②-4-1 河畔林管理のこれまでの取組みについて ②-6 河畔林管理のこれまでの取組みについて	(P.21)	51、61
②-4-2 魚がすみやすい川づくりについて ②-5 魚がすみやすい川づくりについて	(P.22)	53
②-7 水辺の楽校の取組みについて	(P.23)	54
②-8 尻別川の管理区分と流域治水について	(P.24)	16、39、47
③ 河道の維持(中州)、河川構造物の耐震性について	(P.25)	60、61、50
④ 河川整備、魚類等に関する情報共有について	(P.26)	51、53

※以降、いただいたご意見は事務局にてテキスト化し、受付順に掲載

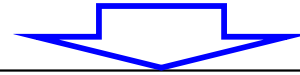
※個人や特定の企業・団体情報に関わる部分は黒塗り

河川整備計画の目標及び河川整備の実施に関する事項

流域住民からのご意見①への回答（魚類の記載について）

【ご意見①-1】

- 資料の中で p20 20行 付近「国内最大の淡水魚であるイトウ」とあります。間違いではありませんが、ここは「希少種」または「絶滅危惧種」であるイトウにして頂いたら良いのではないのでしょうか。



【回答】

- イトウは、環境省レッドリスト「絶滅危惧IB類(En)」、北海道レッドリスト「絶滅危惧IB類(En)」、IUCN(国際自然保護連合)「絶滅危惧IA類(深刻な危機)」に指定されています。
- 住民意見を反映し、イトウの貴重性を説明する表現に修正します。

(対応前)

- (原案)20ページ19行目「また、尻別川は国内最大の淡水魚であるイトウが生息し…」

(対応後)

- 修正(案)20ページ19行目「また、尻別川は国内最大の淡水魚で、**重要種である**イトウが生息し…」

- 修正(案)該当箇所:**

4ページ12行目、20ページ19行目、28ページ15行目、53ページ1行目

【参考】

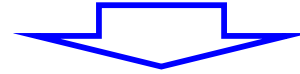
「河川水辺の国勢調査作成マニュアル」では、レッドデータブック及びレッドリストに掲載されている種を「重要種」として定義しています。「希少種」や「絶滅危惧」はレッドリストのカテゴリ(ランク)名と混同することから、「重要種」と致しました。

河川整備計画の目標及び河川整備の実施に関する事項

流域住民からのご意見①への回答（魚類及び底生動物の記載について）

【ご意見①-2】

- ・ サクラマス^①の記述が多々ありますが、実態の生息は 在来種のアメマス、外来種のニジマス、ブラウントラウトもいます。「マス」か「マス類」はどうでしょうか？
- ・ カワヤツメを加えるならばモクズガニも加えては？



【回答】

- ・ 尻別川は、日本海側で有数のサクラマスが遡上・産卵する河川であり、尻別川を特徴づける種であるため記載しています。
- ・ ご意見のとおり、「マス」「マス類」と一括りにすると、ニジマス等の外来種を含む表現となることから、産卵環境の保全に関する部分など、記載箇所によっては適さないと考えています。このため「サクラマス(ヤマメ)」に統一しています。
- ・ なお、「尻別川では、アユ、サクラマス(ヤマメ)等の溪流釣りが盛んであり・・・」のように魚類一般を示す場合は、記載種の後ろに「等」を追記致します。

・ 修正(案)該当箇所:

4ページ13行目、20ページ20行目、53ページ2行目～「サクラマス(ヤマメ)」
28ページ9行目～「サクラマス(ヤマメ)」等

- ・ カワヤツメは、遡上・産卵環境が河川環境の影響を受けやすい種であることから記載しています。カワヤツメと比較すると、モクズガニは繁殖域が河口域に限定されることから、(原案)のままの記載とします。

河川整備計画の目標及び河川整備の実施に関する事項

流域住民からのご意見②への回答（外来種の記載について）

【ご意見②-1】

1-2-2 (3)動植物の生息・生育・繁殖状況(28 ページ)と2-1-3(1)河畔林の保全・創出、河岸の多様化(51 ページ)「尻別川水系河川整備計画[変更](原案)(以下変更原案)の28 ページには、特定外来生物の記載があるが、オオキンケイギクが書かれていない。しかし近年見られるようになったので、書き加えてはどうだろうか。また、51 ページに、「外来種、特に特定外来生物の生息・生育が確認された場合は、在来種への影響を軽減できるよう関係機関等と迅速に情報共有するなど連携して適切な対応を図る。」とある。この部分にオオキンケイギクを含めた今後の対策を記載してはどうだろうか。オオキンケイギク対策は急を要すると思う。



【回答】

- ・オオキンケイギクの生育有無を再確認した結果、河口域に侵入・分布していることが確認できましたため、ご意見を反映して本文に追記することとします。
- ・また、オオキンケイギクを含む外来種への対応は、(原案)51ページのとおり、関係機関等と迅速に情報共有するとともに、多様な地域活動と連携して適切な対応を図ることとします。

(対応前)

- ・(原案) 28ページ16行目
「また、特定外来生物としてアライグマ、ミンク、セイヨウオオマルハナバチ、オオハンゴンソウが確認されている。」

(原案)29ページ 表1-7 動植物確認種(植物を抜粋)

植物	91 科 479 種	草本類	カタクリ ^特 、コナギ ^特 、カモガヤ ^外 、オオアワガエリ ^外 、イソスミレ ^特 、オオバタチツボスミレ ^特 、ヤマタニタデ ^特 、オオイタドリ、ノダイオウ ^特 、キタノコギリソウ ^特 、イワヨモギ ^特 、オオヨモギ、オオハンゴンソウ ^外 、他
		木本類	エゾノキヌヤナギ、オノエヤナギ、シラカンバ、トチノキ ^普 他



(対応後)

- ・修正(案) 28ページ17行目
「また、特定外来生物としてアライグマ、ミンク、セイヨウオオマルハナバチ、オオハンゴンソウ、**オオキンケイギク**が確認されている。」

修正(案)29ページ 表1-7 動植物確認種(植物を抜粋)

植物	91 科 480種	草本類	カタクリ ^特 、コナギ ^特 、カモガヤ ^外 、オオアワガエリ ^外 、イソスミレ ^特 、オオバタチツボスミレ ^特 、ヤマタニタデ ^特 、オオイタドリ、ノダイオウ ^特 、キタノコギリソウ ^特 、イワヨモギ ^特 、オオヨモギ、オオハンゴンソウ ^外 、 オオキンケイギク^外 、他
		木本類	エゾノキヌヤナギ、オノエヤナギ、シラカンバ、トチノキ ^普 他

- ・**修正(案)該当箇所:** 28ページ17行目、29ページ 表1-7「尻別川下流部(蘭越付近～河口)における動植物確認種」

河川整備計画の目標及び河川整備の実施に関する事項 流域住民からのご意見②への回答（河川の維持について）

【ご意見②-2】

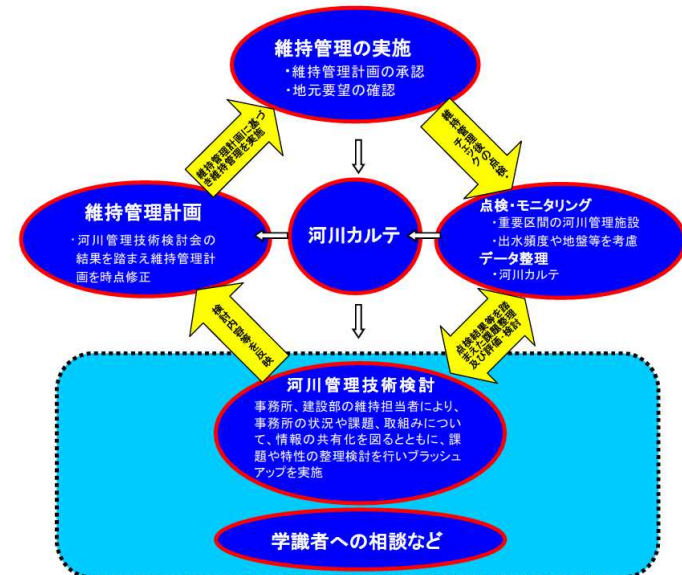
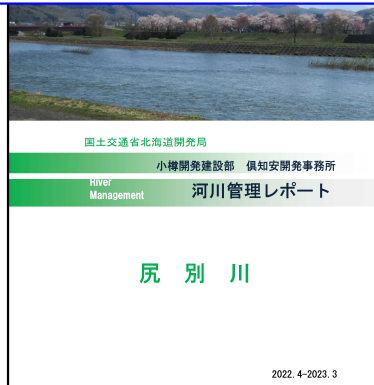
1-3-1【河川の維持について】(36 ページ)平成22年に策定された「尻別川水系河川整備計画(国管理区間)」(以下22計画)の25ページには、「河道や河川管理施設をはじめ、流水や河川環境等について定期的にモニタリングを行い、その状態の変化に応じた順応的管理(アダプティブ・マネジメント)に努める。」と書かれている。このことについて、現在までの14年間にどのように取り組み、どこまで進んだのかを「変更原案」の36ページに付け加えてはどうだろうか。

【回答】

- 小樽開発建設部では、河道や河川管理施設をはじめ、流水や河川環境等について定期的に調査・点検・モニタリングを行い、その結果を河川カルテに記録するとともに評価を行い、樹木伐開、堤防法面補修や堆積土砂掘削等、河川の状態の変化に応じた順応的管理(アダプティブ・マネジメント)に努めています。
- また、あわせて通常、見えにくい管理の取り組みを地域の皆様へ知って頂くため、HP等を通じた「河川管理の見える化」に取り組んでおり、毎年「河川管理レポート(尻別川)」として、公表しております。
- 河川整備計画については、[変更](原案)のままの記載とします。

河道や河川管理施設の維持

- 「河川維持管理計画」の策定
- 「河川管理レポート」の公表
- 河川管理施設の調査・点検による状況把握：必要な場合には、維持・補修を実施



アダプティブ・マネジメントのイメージ
(尻別川河川管理レポートより抜粋)

河川整備計画の目標及び河川整備の実施に関する事項

流域住民からのご意見②への回答（多自然川づくり基本方針について）

【ご意見②-3】

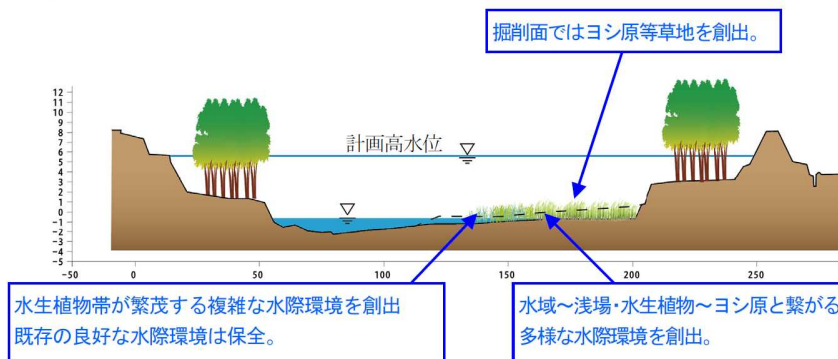
2-1-1(1)2)河道の掘削等(43 ページ)この項には、(22 計画)になかった「多自然川づくり基本方針」を踏まえた内容が付け加わっている。この点評価できる。ただ今後の対策については具体的な記述がない。この項に付け加えるか、別に尻別川独自の「多自然川づくり基本方針」のようなものを作ってはどうだろうか。



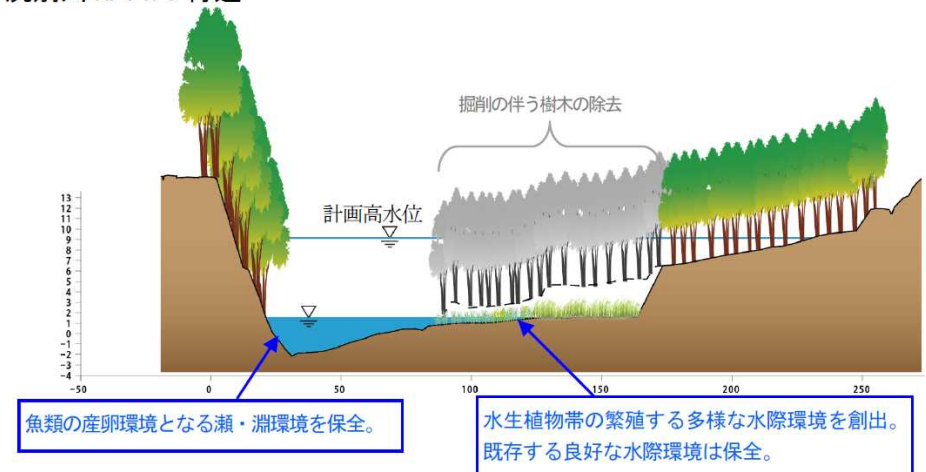
【回答】

- 河道掘削にあたっての代表的な対応案については、(原案)43ページ、45ページに示すとおり、区間毎に配慮事項を記載しています。
- 実際の工事を行う際には、区間毎に具体的な計画を立案し、事前・事後のモニタリングを行いながら、河川環境に配慮した川づくりを推進していきます。
- 河川整備計画については、[変更](原案)のままの記載とします。
- 河川整備計画[変更](案)該当箇所：43ページ16行目、45ページ 図2-1「河道の掘削のイメージ図」

【河口区間】尻別川 KP3.0 付近



【下流区間】尻別川 KP14.0 付近



※掘削方法を工夫(敷高や勾配等)することで、水域～浅場・水生植物～草地～河畔林と繋がる多様な水際環境を形成する。合わせて河道掘削後の樹林化を抑制する。

河川整備計画の目標及び河川整備の実施に関する事項

流域住民からのご意見②への回答（魚類の生息環境の配慮方針の記載について）

【ご意見②-4-2】抜粋

2-1-3(1)河畔林の保全・創出、河岸の多様化(51ページ)「22計画」の37ページには、「魚類や鳥類等の生息・生育・繁殖環境に配慮し、多様性のある水際等の保全と形成に努める」と書かれている。これらについて、現在までの14年間にどのように取り組み、どこまで達成したのかを「変更原案」の51ページに付け加えてはどうだろうか。またこの部分に水際環境や瀬・淵環境をどのように維持するのか、河道の断面が単調とならないようにするためにどんな方策をとるのか、できる限り具体的に書くと良いのではないか。

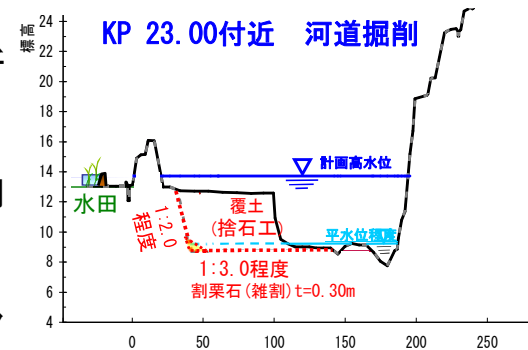
【ご意見②-5】

2-1-3(2)魚がすみやすい川づくり(53ページ)「22計画」の38ページには、「河道の掘削にあたっては、河床の掘削を極力避けるとともに、水際植生の保全・創出に努め、魚類にとっての生息環境が良好に保たれるように配慮する。」「支川や流入水路等においては、・・・魚類等の移動の連続性の確保など水系として魚がすみやすい川づくりに努める。」と書かれている。これらについて、現在までの14年間にどのように取り組み、どこまで達成したのかを「変更原案」の53ページに付け加えてはどうだろうか。また魚類にとって良好な生息環境とはいかなるものか、魚がすみやすい川というのはどういう川なのかを具体的に明示してはどうだろうか。



【回答】

- 河道を掘削する場合は、極力みお筋部を掘削しないような掘削断面を設定し取り組んでおります。
- また、河道掘削にあわせて捨石工による河岸の多様性確保、産卵環境を創出する河道掘削に取り組んできました。
- これらの取り組みによって、蘭越町市街地付近では、アユ、カワヤツメの産卵環境が経年的に増加傾向であることを確認しています。
- 今後の河道掘削にあたっては、河川水辺の国勢調査等の結果を活用しながら、引き続き、これらの魚類の生息環境に配慮した川づくりに取り組んでいきます。
- 魚類にとって良好な生息環境の位置付けについては、[変更](原案)51ページ 10行目に「植生を含む水際部や瀬・淵は、魚類にとって貴重な生息・生育・繁殖環境を形成している」と記載していますので、[変更](原案)のままの記載とします。



河川整備計画の目標及び河川整備の実施に関する事項

流域住民からのご意見②への回答（人と川とのふれあいに関する整備について）

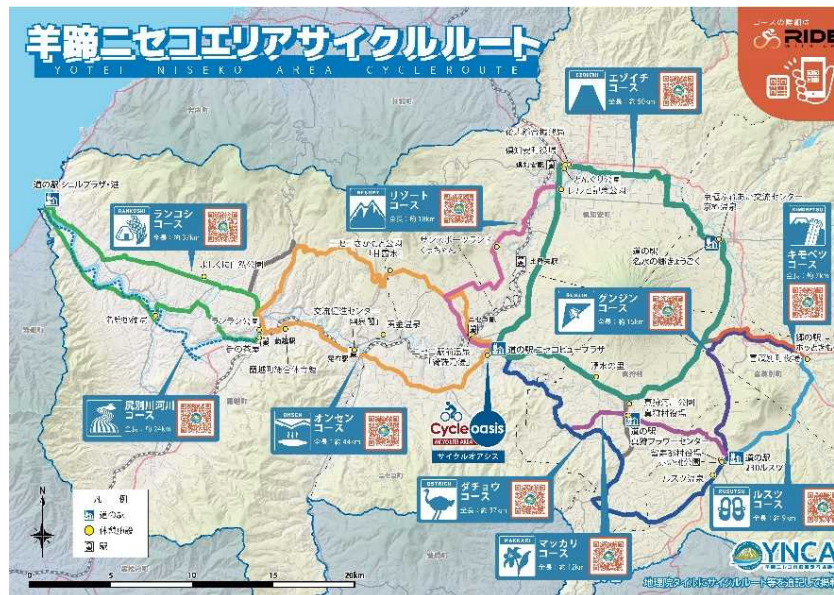
【ご意見②-7】

2-1-3(4)人と川とのふれあいに関する整備(54ページ)「変更原案」の54ページには、「・・・河川利用や環境学習の場等、多くの人々が川に安全に親しめる空間となるよう、関係機関や地域住民等と一体となって取り組む。」と書かれている。名駒地区の水辺の楽校はできてから20年以上がたつ。これまで地域住民、とりわけ児童生徒が、どのように活用してきたのか、また今後どのように活用するのかを記載をしてはどうだろうか。



【回答】

- 「水辺の楽校」とは、地域の人々が中心となって、身近にある川を子供たちの遊び場、自然体験を楽しめる場所として活用するプロジェクトです。北海道開発局は、施設の整備等の支援をしています。
- 名駒地区の水辺の楽校については、平成13年より地元住民の方を中心に散策や昆虫観察等、利用いただいていたところですが、近隣の小学校が廃校になるなど、周辺環境も当時から変化してきているところです。
- 水辺の楽校近辺には、例年秋になるとウライが設置されサケの遡上が確認されたり、周辺の堤防天端も「羊蹄ニセコエリアサイクルルート」として活用されているため、既存の「尻別川かわづくりワークショップ」や活動主体とも連携し、このエリアも含めた尻別川の利活用を検討します。



多言語案内
看板整備

サイクリングロード路面標示



尻別川かわづくりワークショップ

河川整備計画の目標及び河川整備の実施に関する事項

流域住民からのご意見②への回答（地域と一体となった取組について）

【ご意見②-8】

2-2-2(6)地域と一体となった取組(74ページ)尻別川はフレ岳の西方から日本海までの126kmの一級河川である。今回の「変更原案」の対象は国管理区間の約24kmである。流域治水というなら、水系のすべてを国が(または道が)管理をすべきだと思う。よって(国管理区間)から【大臣管理区間】に変えるのではなく全区間を対象にすることを提案したいのだが、それは現時点では現実的ではないと思う。そこで、国と道の緊密な連携で尻別川水系を管理することを提案したい。具体的には74ページに記載するか、新たな項目を作ってそこに書いてはどうだろうか。



【回答】

- 尻別川水系の河川管理についてはこれまでも、「尻別川減災対策協議会」、「水防工法実技訓練」、「尻別川蘭越地区水害タイムライン訓練」、「環境保全連絡協議会」等、例年定期的に河川管理に関して北海道や流域関係機関と連携を図ってきているところです。
- これに加え、令和2年9月には「尻別川流域治水協議会」が設置され、河川管理も含めた流域対策について流域全体のあらゆる関係者が協働して推進をしております。
- また、整備計画[変更](原案)36ページにおいて、「既存の流域内連携に関連する枠組みと連携の上、流域への普及啓発に努める」と新たに記載しているところです。



尻別川減災対策協議会



水防工法実技訓練



尻別川蘭越地区水害タイムライン訓練



環境保全連絡協議会

河川整備計画の目標及び河川整備の実施に関する事項

流域住民からのご意見③への回答（河道の維持、河川構造物の耐震性について）

【ご意見③】

- 第1章 20ページ (4)治水上の課題 の中で、河道断面が著しく不足している区間が有り、そのために中州が多くみられるので、中州の撤去を計画的を行った方がよろしい。
- 河川構造物の耐震性を高めたほうが良い。



【回答】

- 堆積傾向の箇所及び河口部については、状態監視を密に実施しております。
- また、河川構造物の耐震性については、必要な耐震対策を実施していきます。
- 上記については、(原案)にも反映しており、今後も、引き続き河川整備や維持管理に努めます。



中州の堆積状況



中州の掘削状況

河川整備計画の目標及び河川整備の実施に関する事項

流域住民からのご意見④への回答（魚類等に関する情報共有について）

【ご意見④】

- 第1, 2章 41,43,51,53ページ 昨今、気候変動による豪雨により河川氾濫が全国で見受けられる。洪水災害に備えるためにも河川整備は蘭越町の農業や地域で暮らす町民の安全を確保するためにも必要である。その中でも多様な生物の生息・生育・繁殖場を保全・創出に配慮した河川計画には当会としても非常に賛成である。尻別川は国内最大級の淡水魚であるイトウをはじめ、カワヤツメ、アユ、サケ、サクラマス等が生息している魅力ある河川の一つであるため、今後、尻別川の河川整備を進める上で生物に適切な産卵環境の保全そして創出を図る際は当会としても協力したいので、これからもこのような情報共有の場を作っていただきたい。



【回答】

- 整備計画[変更](原案)53ページには「地域の協力を得ながら、産卵環境や水際植生の保全・創出を図り、この取組を流域内で情報共有を行い、魚類にとっての生息環境が良好に保たれるよう配慮する」と記載しております。
- 今後も引き続き関係者との情報共有を密に行い、整備計画を推進していきます。